

ディールエージェント

物流不動産の仲介事業を展開しているディールエージェント（楫西一太社長、東京都千代田区）は4月から、関東地区を中心にサブリース事業の強化へ乗り出している。仲介ビジネスを手掛ける強みを生かし、貸し手と借り手の間を取り持つサービスを拡充。未使用施設を一括で借り上げ、マーケットに投入することで、テナントの選択肢を増やすとともに、安定収益源の確保を図る。

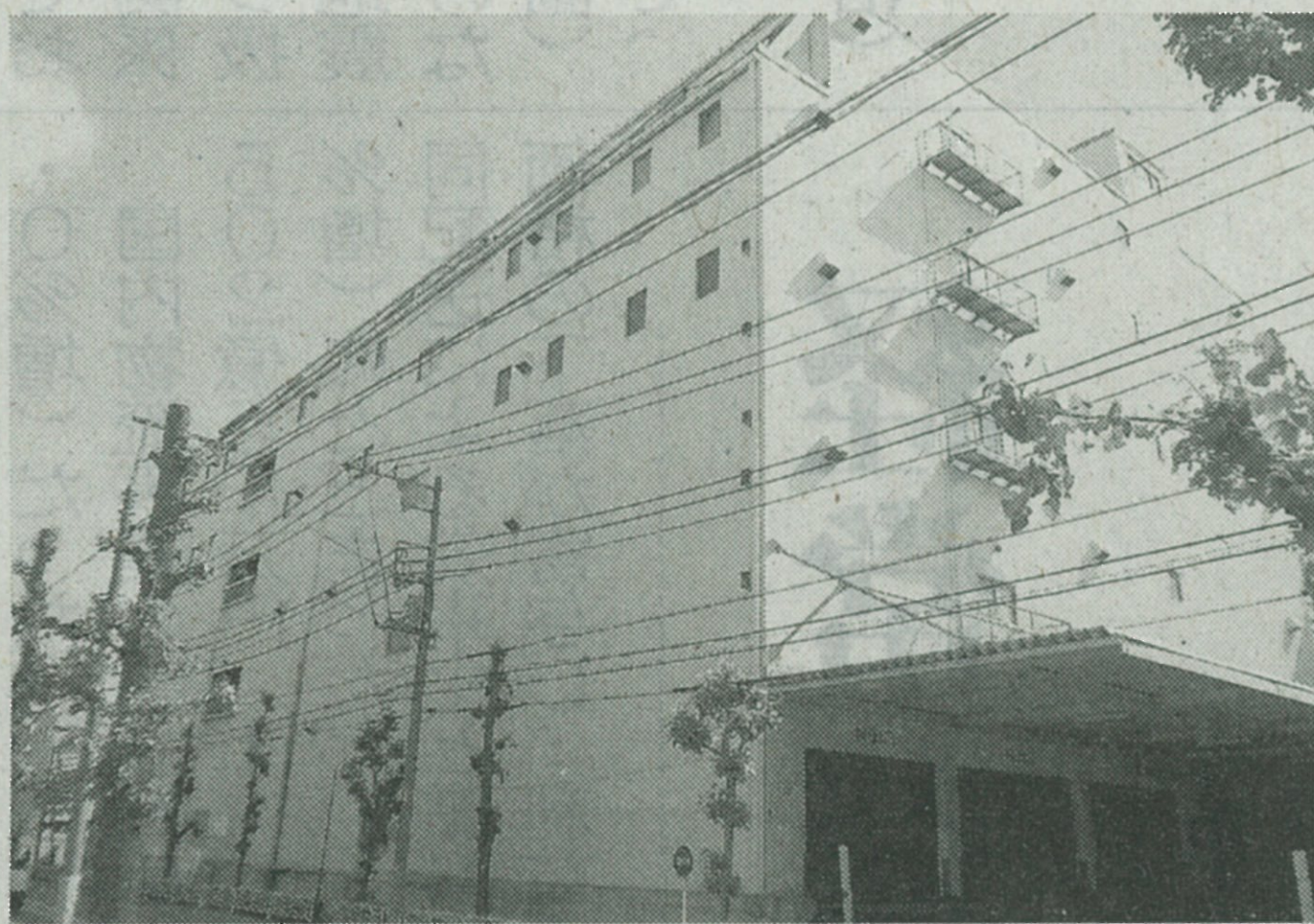
サブリース事業は2年前から手掛けており、現在は7物件（延べ床面積約3万

「物件目利き力」生かす

平方メートルのサブリース並びに施設管理を行っている。オーナーと交渉して手頃な好立地にある最新物流施設が引く手あまたなのに対し、築古物件やスペックに難のある物件はテナントが

質料契約を結び、ユーザーにリーズナブルな価格で提供する。

楫西社長は「当社の強み



サブリースを手掛けた物件

（東京都江東区）

である『物件の目利き力』を生かして、即断即決で物件を仕入れ、いち早く需給をマッチングさせている。物流不動産の仲介実績を積み上げていく中で、リスクと背中合わせのサブリース事業に本腰を入れる自信が付いた。貸し手と借り手の橋渡し役として、サブリース事業も強化していきたい」と話している。

（沢田顕嗣）